

大学院生命理学研究科博士前期課程及び5年一貫制博士課程入学試験
の出題ミスとその対応について

平成26年9月12日

このたび、平成27年度生命理学研究科博士前期課程及び5年一貫制博士課程入学試験問題の一部に出題ミスがあることが判明しました。受験者に不利益が生じないように下記のように対応しました。

今回の事実を厳粛に受け止め、出題ミスの内容、発見の経緯、関係者への周知及び再発防止に向けた今後の対応策等について、以下に公表します。

1. 出題ミスの内容

平成26年8月25日(月)の10時30分から13時にかけて実施した、生命理学研究科博士前期課程及び5年一貫制博士課程入学試験の専門科目(第1問)基礎数学の小問(3)において、以下のとおりの記述ミスがあった。

(当日配布した記述ミスの問題)

(3) 2行2列の直交行列 U を次式により定める。

$$AU = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix} U$$

このとき、前問のベクトル \vec{u}_j ($j=1, 2$) の成分を用いて、直交行列 U を求めよ。

上記の行列式右辺の積の順序が逆となっている記述ミスと判明した。

(誤)

(正)

$$AU = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix} U$$

$$AU = U \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$$

2. 出題ミスの発見状況

全受験者は6名で、「基礎数学」を2名が受験した。平成26年8月31日(日)に、記述ミスが判明した。なお、試験中、受験生からの指摘はなかった。

3. 受験者の合否判定及び受験者への周知について

受験者が不利益を被らないように、該当の小問（3）とそれに関わり解答できない小問（4）を全員（2名）正解とした。当該箇所の配点は「基礎数学」100点満点中の「10点」であり、該当箇所について回答者全員を正解としても合否判定に影響がなかった。

今回の出題ミスについて、受験者全員に対して文書で通知を行う。

4. 出題ミスが起こった原因とチェック体制について

問題案作成後、点検委員（2名）がチェックをした。出題委員が点検委員の指摘に従って、問題訂正およびフォーマットの合致を再度検討したが、ここで当該小問の記述ミスを見つけることはできなかった。作問の過程で出題委員自身および点検委員は、計算過程を追跡していた。しかし、該当方程式の誤りについては、何度かの確認においても、誤りに気づけなかった。

5. 今後の対応策

平成15年度から新たにガイドラインを作成し、複数の点検委員が独立に問題をチェックする体制をとっているが、今後、点検委員を増員するなど、相互のチェック体制をさらに充実させ、生命理学研究科として再発防止に努めたい。